

高江 異様な住民排除

岐阜・九条の会 沖縄の運動を学ぶ

岐阜・九条の会は6日、沖縄に行き高江ヘリパッド建設反対闘争に参加した市民運動家の近藤ゆり子さん(66)を講師に招いて、岐阜市内で第279回「サロン9条例会」を開催し、19人で話し合いました。

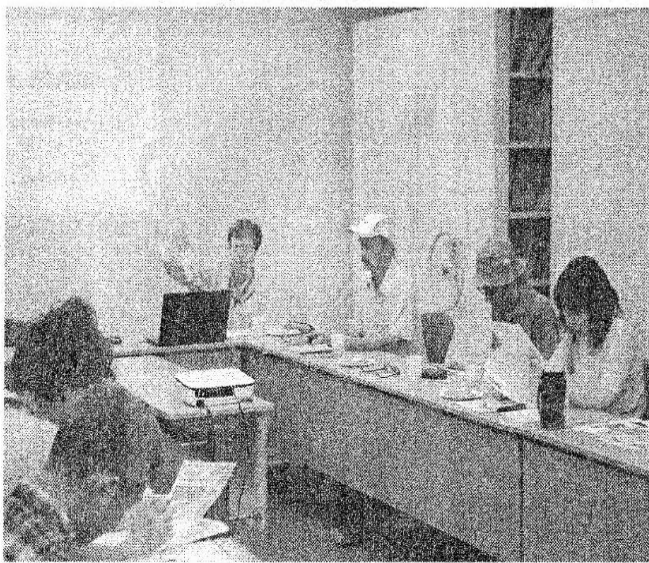
近藤さんは、参院選後、本土から押し寄せた警察・機動隊員1000人が住民の強い抗議を押し切り、戒厳令状態のなか、暴力的に建設工事を強行したことを報告。「住民や支援にきた人たちが『高江ヘリパッド建設反対』などのプラカードを高く掲げて抗議して

いるのに、防衛局の職員や警備員がカメラで写真をとり、暴力的に排除するなど異様だ」と語りました。

近藤さんの話を聞いた50代の女性は、「選挙でオール沖縄が勝ち続けているのに、政府

は『話し合いを続ける』とか『負担軽減』とか言って強行するのはひどすぎる。いうこととやるのが全く反対だ」と、安倍政権に怒りを込めて語りました。

初めて参加した女性



沖縄の高江ヘリパッド建設反対のたたかいを紹介する近藤ゆり子さん(右から4人目)＝6日、岐阜市

は「沖縄は5年前に行き、沖縄戦跡のひどさを肌で感じた。岐阜で自分に何かできないかと思い参加した。沖縄の現実をもっと知りたいたい」と語りました。

他の参加者からも「実力行使をしているのは政府であり、法を無視している」「まず集まって悩みやわからないことを共有して始めることは大事」などの発言が続きました。

近藤さんは、「改憲勢力が3分の2を超えたからといって、たたかいは『国会の議席数』で決まるわけではない。状況を変え突破する市民のたたかいにこそ道理がある。国民の不断の努力を定めた憲法12条をいま生かすときだ。沖縄のたたかいに学んで、改憲を許さないたたかいを広げよう」と結びました。